

救命率向上へ情報共有

製鉄記念室蘭病院で救急症例検討会

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の救急症例検討会が、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、

西胆振管内の救命救急士、救急隊員らが、心肺機能停止前の静脈路確保の実施状況や心疾患をはじめ、最近の搬送時の対応や処置について、同病院の医師、看護師らと意見交換。救命率向上を旨指して情報を共有した。

今回は約80人が参加。

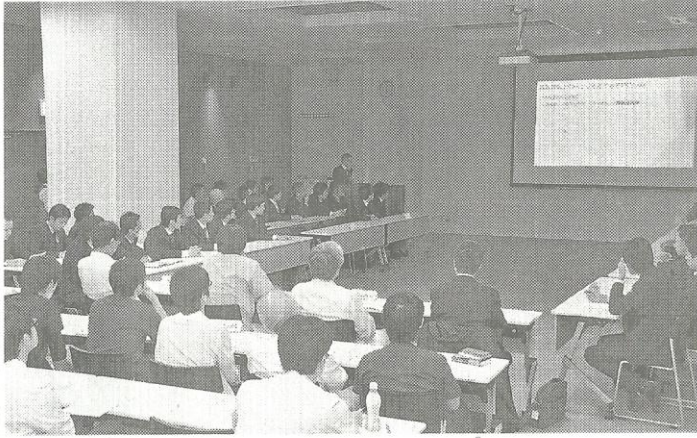
室蘭市消防署の佐々木裕治隊員は、同署の「静脈

路確保の実施状況」について報告した。

厚生労働省は2014年(平成26年)4月から救急救命士の業務に、①低血糖が疑われる患者への血糖測定と、低血糖患者へのブドウ糖溶液の投与②心肺機能停止前の静脈路(静脈内への薬液投与経路)の確保と点滴投与の実施―を追加、処置範囲を拡大している。

佐々木隊員は、静脈路確保率を上げるためには「有効な1次救命措置や

状況に合わせた駆血方法などで、より静脈路確保が確実と思われる血管を作り出す」「確認できた血管に対して、確実に静脈路確保を



医療スタッフと救急隊員らが意見交換した救急症例検討会

行えるよう、研修及び実習を実施する」などと、現状と課題解決に向けた考えを説明した。

また、登別市消防本部の土橋正雄隊員は「シヨ

ック症状のある心疾患疑い搬送症例」、西胆振消防組合伊達消防署の上田真司隊員は「徐脈性心房細動を来した症例」を報告。医師らとの意見交換を通じて、一刻を争う事態での対応や連携をあらためて確認していた。

(松岡秀宜)